

輝く

障害者作業所代表

村上佳代さん

「将来はグループホームや喫茶店を開くことを目標にしています」と語る村上佳代さん＝富合町



人と人とのかわり。

将来の夢はグループホーム

下益城郡富合町杉島の作業所兼自宅。毎日午前三時に起き、パンの仕込みを始める。「普通のパン屋さんからは遅いって言われて。うちはまだ扱う量が少ないから」
今年四月に障害者作業所「なすな工房」を開いた。障害者一人、スタッフ一人とともに食パン、菓子パンなど約二十種類のパンを作る。子ども会の催しなどで一度に五百個の注文を受ける日も。

「人と人とのかわり」を求めて福祉関係の就職先を選んだ。大学卒業後、専門学校を経て、神奈川県知事の知的障害者の入所施設で生活指導員を五年間務めた。「障害者を先入観で判断せず『個人』として付き合い、その人にあったサポートを考える。『真摯(しんし)』に当たる』姿勢を学びました」

その後、熊本市内の障害者施設で七年間働いた。熊本では障害者の働く場所が少ないんです。自分でやってみようという気持ちが抑えられなかった。パン作りを選んだのは具詰め、袋詰めなどの工程を障害の程度に合わせて役割分担できると考えたから。作り方は独学で覚えた。借金して作業所を立ち上げた。収入の柱は一個百一三百円のパンの売り上げ。行政の支援もない。「でも少し先は見えてきた。来年は障害者を五人は受け入れたい。そのためには販売先を広げて、NPO法人資格も取得したい」

この道を歩んだのは「楽しく過(あ)す人」の様子を見るのが自分でも楽しいから。「将来はグループホームも手掛けたい」と夢は広がる。

◇今、一番大切にしているもの
人と人とのかわり。さまざまに人に助けられた。あらためてしみじみ思います。

◇最近、感動したこと
今年夏、ダウン症の少年が演奏した太鼓。彼はもう、自分を見事に表現できる「奏者」でした。

◇好きな言葉
一路平安。熊本から東京に旅立つ際に大切な友人がかけた言葉です。「『平安で』と言ってくれるがいる。頑張らねばと心に誓いました。」

(報道部・井村知章)

ワタシは、